

風はるか、秋田藩の羽州街道

①院内峠から六郷まで

院内峠（雄勝峠）からおおむね現在の国道13号と同じ道筋をたどって、藩政期に陣屋と御境口の関所があった上院内荒町の院内関所跡に出る。院内銀山と関所で知られた院内には佐竹の家臣団が配置され、御本陣も置かれる緊張の場となった。

下院内馬場を通過して北進すると役内川に架かる橋に達する。横堀は院内峠開削まで主要道であった有屋峠の道に至る往還の分岐点で、その先の小野の里は、小野の小町ゆかりの芍薬塚で知られる。

北にのびる街道は右手に東鳥海山を眺めながら湯沢に向かうが、下関のあたりはひんばんな雄物川の洪水があつて難儀したものと、藩録「秋田風土記」や菅江真澄の「月の出羽路」などが伝え残している。

湯沢は中世に開かれた町で小野寺氏支配の後、佐竹氏の所領として佐竹義種が入って佐竹南

の街道に関する記述を多く見ることが出来る。

湯沢町から岩崎に向かう道には、杉沢新所の杉並木、成沢の松並木、岩崎の杉並木など街道並木が列をなしていたという。藩政期の街道管理を示した「領中大小道程帳」には、並木はもちろん、杉沢の一里塚や岩崎の渡船場などが書かれている。この皆瀬川の渡しは度重なる洪水で、舟場の位置はなかなか定まらなかった。

古内村と十文字との中間点にはケヤキとサイカチの木が両脇に立つ一里塚があり、十文字はその名のおり街道の十字路で東は増田や稲庭へ、西は浅舞に向かつていた。またここには、文化八年（一八一二）、増田村の通覚寺住職が旅人の安全を願って狸々碑を建てたという。

十文字から次の梨木羽場までは昭和三〇年頃まで見事な松並木が残っていたといい、また梨木羽場の愛宕神社前の街道脇には旅人が腰をかけて休む「休み石」が二つあった。

醍醐地区を貫く街道は、石成、大橋、金屋とほぼ現国道に重なっているが、横手に近づいて中山丘陵の一角にある持田に至る



院内関所の図

佐竹氏が秋田に移封されて以後、寛政4年（1792）から最上との「御境口」となって通行が激しく取り締まられた。戊辰ノ役では、仙台藩士の青山六之丞が捕らえられ斬り殺され、その史蹟が関所跡に残っている。（雄勝町児玉耕一氏蔵）

菅江真澄「雪の出羽路」複製より
真澄が訪れた文政8年（1825）頃、十文字には9戸の人家しかなかったが、交通の要所となったため、真澄が「なお年々に家具作り副うべし」というように、その後おおいに栄えた。（秋田県立博物館蔵）

十文字の狸々碑

昔、この里に怪しい狸がいて人々をだましていた。そこで益田の天端和尚がこの碑を建てて畏れを鎮めたという。道しるべともなった碑文は戯れ歌となって旅人に口ずさまれた。現在、町の幸福会館に展示保存されている。



湯沢の一里塚

吹張町にある樹の木は一里塚に植えられたもので、樹齢およそ400年とされている。藩政当時は街道両脇に立っていたものが今は片側に残るのみである。

横手寛文9年絵図

横手城は町を一望できる朝倉山の高台にあり阿桜城とも呼ばれたが、羽州街道が通る城下の大町には大きな肝煎屋敷や御役屋、札場、伝馬役所などが集まっていた。（横手市立図書館蔵）



と、今はないが、歴史の古さで知られた大屋の梅があった。またここには聖徳太子が祀られる太子堂（宗神社）がある。持田を抜けると、真澄も「雪の出羽路」に書き著わした「よき寒泉のみさこの清水」があった。やがて、安田村を通過して横手鍛冶町から町屋に入ると横手の城下町となる。

外町である大町や四日町は馬市が立った所で、寛永六年（一六二九）には幕府の馬買衆が将軍御用馬を求めに来たものという。横手の城下町は藩政初期は須田氏、その後は戸村氏が支配する所領となった。商人町として賑わう外町から蛇ノ崎橋を渡って足軽町を抜け街道は北の金沢に向かう。さらに街道は金沢本町から厨川に至り、右に金沢柵跡と金沢八幡神社の森を、左の田園に後三年の古戦場を眺める。厨川はその節、鎌倉権五郎景政が矢で片目を射られ、その後片目のカジカが川に見られたとの伝説の場所である。

羽州街道は、桑折（福島県）で奥州街道と分かれ、七ヶ宿通りから山形の上ノ山藩領に入り新庄領と秋田領の境、院内峠を越え秋田藩領を通過して津軽藩までのびる藩政期の主要な街道であった。

院内峠越えの道は、慶長七年（一六〇二）佐竹義宣が常陸から秋田に転封以後に開削されたもので、それまでは金山（山形県最上郡）から有屋峠を越え秋ノ宮（雄勝町）に至る険しい山道が利用されていた。藩政時代に始まる院内峠から津軽境の矢立峠に至る六十三里余りの秋田領羽州街道の模様を、南から北へ順を追って紹介してみよう。



家となったが、佐竹藩の南の要所として栄えた。

関口から愛宕町への街道は湯沢の城下に延び、南の入口となる吹張町には一里塚と木戸があつて、塚には大きな榎の木が植えられた。それから街道は直線状に、田町、大町、柳町、前森町などの外町を北上したが、大町には制札場と伝馬役所があつた。湯沢には「佐竹南家御日記」（湯沢市立図書館蔵）の貴重な記録が残されており、藩政時代



六郷御本陣跡

本陣は藩主や幕府役人など貴人の宿泊・休憩所にあてられた。参勤交代の折には佐竹氏や津軽氏の御宿として利用されたが、明治3年、運営維持ができなくなった。